

調査観測計画部会の活動状況

令和 5 年 8 月 1 7 日
地震調査研究推進本部
政策委員会調査観測計画部会

令和 5 年 3 月 27 日の第 64 回政策委員会以降の調査観測計画部会（部会長：日野亮太・国立大学法人東北大学大学院理学研究科教授）の活動状況は以下のとおり。

1. 内陸で発生する地震の長期予測手法の高度化について

内陸で発生する地震の長期予測手法の高度化について、地震火山観測研究計画（建議）との連携強化の観点から、地震・火山予知研究協議会より、内陸地震の新たな長期予測手法の具体的な検討状況について話題提供があった。その上で、内陸で発生する地震の長期予測手法の高度化について、今後の調査観測のあり方等の検討を進めるために、内陸で発生する地震の調査観測に関する検討ワーキンググループの設置（別紙 1）について事務局から提案があり、部会として設置を了承した。

2. 予算調整部会との連携について

政策委員会予算調整部会では、1 月～2 月ごろに各省の予算要求結果を踏まえて、今後の課題の議論することとしている。今後の課題についての議論では次年度以降、次期基本施策・次期調査観測計画も見据えた幅広い観点での議論が見込まれることから、調査観測計画部会として予算調整部会と連携して議論を進めることとした。

表 最近の調査観測計画部会の開催状況

開催年月日	回	議題
令和 5 年 7 月 4 日	第 88 回	(1) 内陸で発生する地震の長期予測手法の高度化について (2) 予算調整部会との連携について (3) その他

内陸で発生する地震の調査観測に関する検討ワーキンググループ

令和 5 年 7 月 4 日
地震調査研究推進本部
政策委員会
調査観測計画部会

地震調査研究の推進について―地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策（第 3 期）（令和元年 5 月地震調査研究推進本部決定）において、陸域を中心とした地震調査研究の基本目標のひとつとしている、内陸で発生する地震の長期予測手法の高度化について、今後の調査観測のあり方等の検討を進める必要がある。

このことから、地震調査研究推進本部政策委員会調査観測計画部会のもとに内陸で発生する地震の調査観測に関する検討ワーキンググループ（以下「本 WG」という。）を設置する。

1. 審議事項

- (1) 内陸で発生する地震の長期予測手法の高度化のあり方等について
- (2) その他

2. 構成員等

- (1) 本 WG を構成する委員及び専門委員については、部会長が別途定める。
- (2) 本 WG に主査を置き、本 WG の構成員の中から部会長が指名する。
- (3) 主査は、本 WG に属さない委員及び専門委員、その他専門家を招へいし、意見を聴取することができる。

内陸地震の評価高度化に向けた手法の検討（案）

（論点）

活断層調査（現行）+GNSS等の測地データ、歴史地震を組み合わせた新たな評価手法を検討してはどうか

◆有識者からのヒアリング結果のまとめ（イメージ）

